住友電工グループ・未来構築マガジン「id」はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/id

住友電工グループ・CSR報告書はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/csr-reports

住友電工グループ・統合報告書はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/company/integrated

住友電工

Connect with Innovation

会社案内

住友電気工業株式会社
大阪本社 〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜4-5-33（住友ビル） TEL 06-6220-4141（代）
東京本社 〒107-8468 東京都港区元赤坂1-3-13（赤坂センタービルディング） TEL 03-6406-2600（代）

https://sumitomoelectric.com/jp/

OSAKA, KANSAI, JAPAN EXPO2025
住友電工は「2025年大阪・関西万博」を応援しています。

2025.07
©Expo 2025

SUMITOMO ELECTRIC GROUP

400年以上前にさかのぼる、
私たちの源流。

多様な事業をグローバルに展開し、

世界約40カ国で、約28万人の企業へと

成長を遂げてきた私たち住友電工グループ。

その源流である住友の銅事業は、

400年以上前にさかのぼります。

当時、世界有数の銅生産国だった日本において、

画期的な精錬技術「南蛮吹き」と

その後の別子銅山の発見によって

住友の礎が築かれていきました。

さらに時代が進み、電燈や電信・電話が発明されると、

銅線の需要が高まります。

そうした中、1897年に別子産の銅を使って電線を製造する

私たち住友電工グループが誕生しました。

時代の進展とともに、

モノづくりを通じて社会に貢献しようと挑んだ

先人たちの熱い想いがあったのです。

「公益を重視し、
ステークホルダーの皆様との共栄を図る」
という基本思想のもと

トップテクノロジーを追求し、

つなぐ・ささえる技術を

イノベーションで進化させ、

グループの総合力により、

より良い社会の実現に貢献していく

このような当社グループの存在価値（パーパス）を

これからも追及してまいります。

写真：住友電工大阪製作所での現在の銅精錬

Corporate Philosophy

400年の時を経て、受け継がれ生き続けている精神

住友事業精神

営業の要旨

第一条　我が住友の営業は、信用を重んじ確実を旨とし、
以てその鞏固隆盛を期すべし

第二条　我が住友の営業は、時勢の変遷、理財の得失を計り、
弛張興廃することあるべしと雖も、苟も浮利に趨り、軽進すべからず

（1928年制定 住友合資会社社則より）

萬事入精
ばんじにっせい

「文殊院旨意書」の前文、「商事は不及言候へ共、万事情（精）に可被入候」に由来する言葉で、まず一人の人間として、何事に対しても誠心誠意を尽くす人であれと諭しています。この教えは「住友事業精神」の基本となり、住友では一人ひとりが安易な利益追求に走ることなく、人間を磨き、人格豊かに成熟することが求められています。

文殊院旨意書※

信用確実
しんようかくじつ

第一条では、「住友事業精神」の基本は、「何よりも信用を重んじる」こと、すなわち「常に相手の信頼に応える」ことを表しています。

不趨浮利
ふすうふり

第二条の前段では、社会の変化に迅速、的確に対応して利潤を追求すべきであり、既存の事業に安住することなく常に事業の興廃を図るという積極進取の重要性を説明しています。しかし常に公共の利益との一致を求め、浮利を追い、軽率、粗略に行動することを厳に戒めています。浮利とは、一時的な目先の利益あるいは安易な利益追求のことですが、道義にもとる不当な利益の意味が込められています。

住友家法※

また、住友には下に示すような脈々と受け継がれている考え方があります。

『技術の重視』、『人材の尊重』、『企画の遠大性』、『自利利他、公私一如』

※出所：住友史料館

住友電工グループ経営理念

住友電工グループは

- 顧客の要望に応え、最も優れた製品・サービスを提供します
- 技術を創造し、変革を生み出し、絶えざる成長に努めます
- 社会的責任を自覚し、よりよい社会、環境づくりに貢献します
- 高い企業倫理を保持し、常に信頼される会社を目指します
- 自己実現を可能にする、生き生きとした企業風土を育みます

President's Message

“Glorious Excellent Company”の実現に向けて

私たち住友電工グループは、
「住友事業精神」と「住友電工グループ経営理念」という、
不変の企業の人格的価値を堅持しながら、グループの成長・発展を通じて
社会に貢献する“Glorious Excellent Company”をありたい姿とし、
その実現に向けて取り組んでおります。

現在、エネルギー、情報通信、モビリティの分野では、
技術の革新や融合が進み、大きな変革期を迎えようとしています。
IoT技術が行き渡り、エネルギーネットワークがスマート化し、
電動化したクルマをはじめ、さまざまなモノがつながることで、
新しいサービスが生まれ、それにより持続可能で、安心・安全、
豊かで快適な暮らしが実現してゆくと考えます。

この変革期を成長機会と捉え、グループの総力を結集し、
創業以来育んできた「つなぐ、ささえる技術」をもって、
イノベーションを起こし、
新たな技術や製品、サービスを提供してまいります。
それによって、さらなる成長をめざし、
より良い社会の実現に貢献してゆきたいと考えております。

皆様におかれましては、
引き続きのご支援、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

社長　**井上　治**

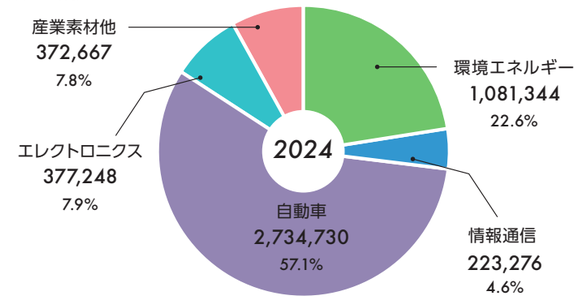
Company Profile

最新データはこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/company/profile

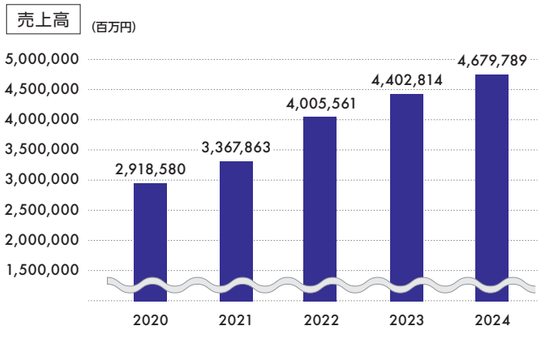
商号	住友電気工業株式会社
本社所在地	大阪市中央区北浜4-5-33（住友ビル）
創業	1897年4月
資本金	99,737百万円
社長	井上 治
従業員数	単独　7,124名 連結　288,145名（2025年3月末）

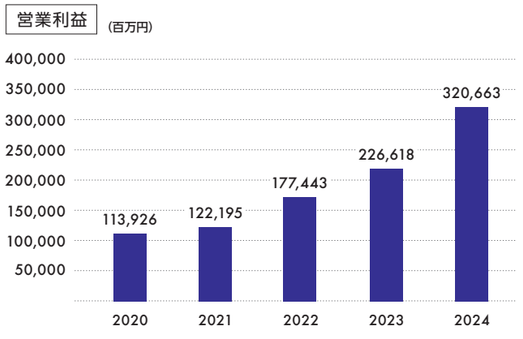
事業セグメント別売上高

※セグメント間の内部売上高などを含むため、セグメント別売上高の合計は正規の売上高とは異なります。また、小数点第一位以下は四捨五入しております。



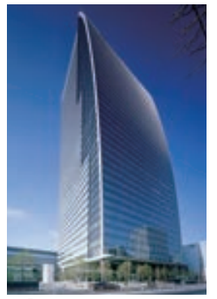
業績推移（連結）（2025年3月末）

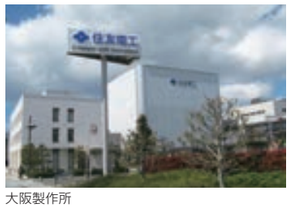




大阪本社

東京本社


中部支社


大阪製作所

伊丹製作所

横浜製作所

History

120年を超える挑戦と変革の歴史

事業の展開

1900
逓信省に
硅銅線を納入

1908
電力用ケーブル
製造開始

1916
エナメル線
製造開始

1922

世界最長の海底ケーブルを
製造・布設
(愛媛県新居浜～四阪島間21km)

1931

超硬合金工具(イゲタロイ®)
製造開始

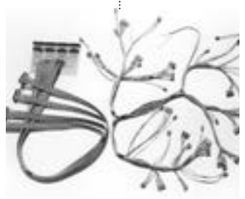
1932

特殊金属線 製造開始

1943
防振ゴム 製造開始

1948
焼結製品 製造開始

1949



自動車用
ワイヤーハーネス事業 開始
架空送電線工事部門 進出

1958

鉄道車両用空気ばね 製造開始

1964

電子線照射製品(チューブ・電線)
製造開始

1968

交通管制システム 事業化

1969

フレキシブルプリント回路事業 開始

1970
化合物半導体 製造開始
CATV事業 開始

1973
コートアルミ(スミフロン®)
製造開始

1976

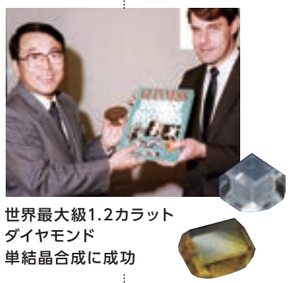
ナイジェリア
大規模通信網工事 受注

1978

世界初双方向光CATVシステム
(Hi-OVIS) 運用開始

1981
世界最先端 光LANシステム
(10Mbpsトークンリング方式)
初納入

1982



世界最大級1.2カラット
ダイヤモンド
単結晶合成に成功

1996
酸化物系
高温超電導線材の
長尺化技術 開発

2006

世界初 高性能窒化ガリウム
トランジスタ(GaN HEMT)
量産化

世界初 実用送電路で
超電導ケーブルによる送電を開始

2016
世界最多心3456心
光ケーブル 販売開始

2017
光ファイバの
低伝送損失世界記録 更新
(0.1419dB／km:波長1560nm)

2019
世界初400kV直流XLPE
海底ケーブルシステム完工
(英～ベルギー間:NEMO Link)

2022

世界最大級レドックスフロー
電池設備 商用運転開始

2023

世界初 極低損失マルチコア
光ファイバ量産化

1600 | 1890 | 1900 | 1910 | 1920 | 1930 | 1940 | 19 | 50 | 1960 | 1970 | 1980 | 1990 | 2000 | 2010 | 2020~

会社の沿革

(出所:住友史料館)

1600頃
銀を含む銅鉱石から
銀を分離する
銅精錬技術
「南蛮吹き」を完成

(出所:住友史料館)

1690
別子銅山 発見(翌年開坑)

1897
住友伸銅場 開設(住友電工の創業)

1911
住友電線製造所 開設
(住友電工の創立)

1916
大阪製作所 開設

1920
株式会社住友電線製造所に改組
(住友電工の設立)

1941
伊丹製作所
開設

1946
東京支社 開設
(現 東京本社)
名古屋出張所 開設
(現 中部支社)

1961
横浜製作所 開設

1969
海外初の製造拠点をタイに設立
(Siam Electric Industries Co., Ltd.)

1997
創業100周年を機に
「住友電工グループ経営理念」
を明文化

2006
ドイツの自動車用
ワイヤーハーネスメーカー
(現 Sumitomo Electric Bordnetze SE)を買収

2007
住友電装株式会社 完全子会社化

2008
すみでんフレンド 設立(特例子会社)

2011
人材に関する基本方針を明確化した
「グローバルHRM※ポリシー」を制定
※HRM:Human Resource Management

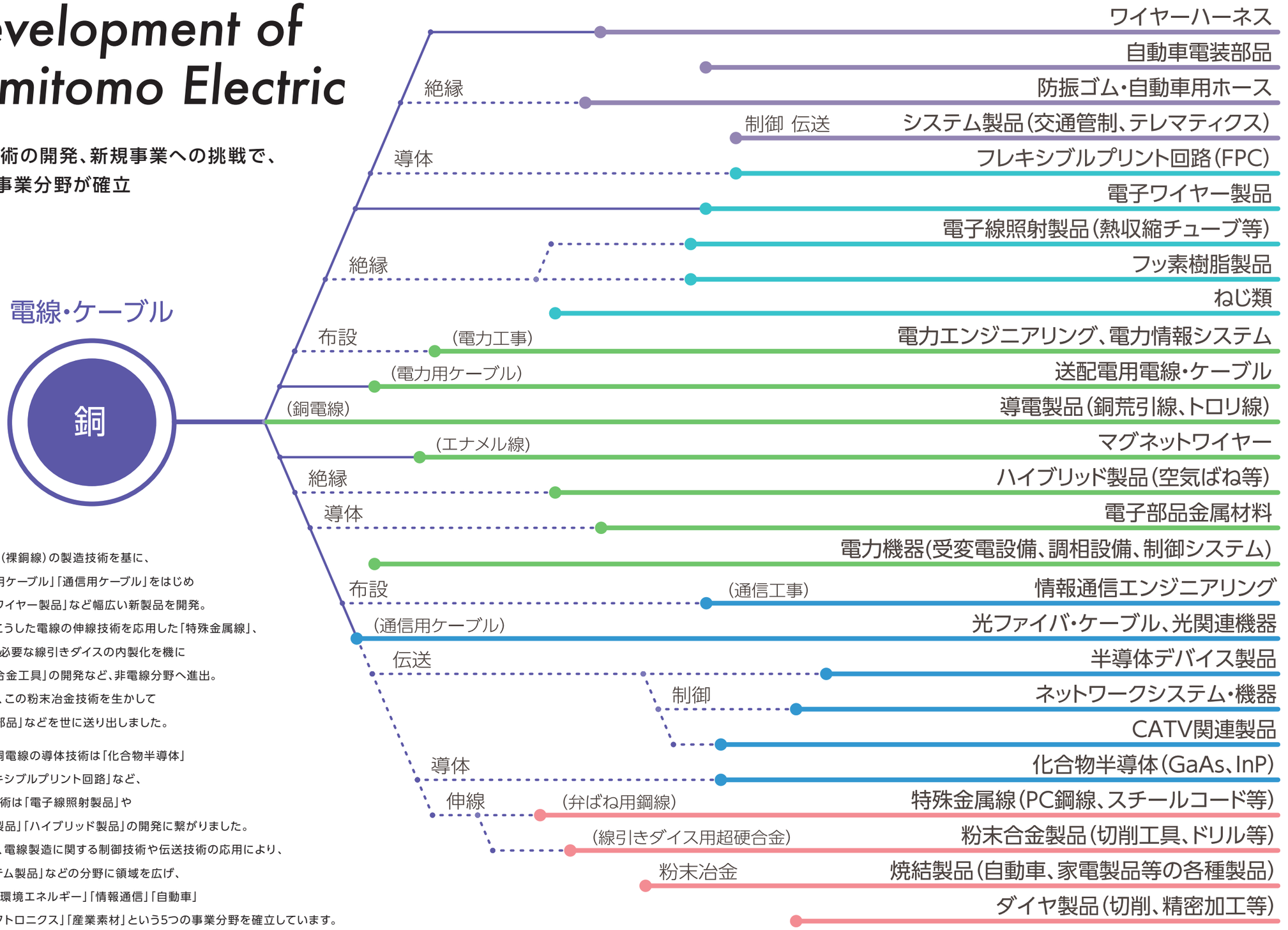
2019
茨城製作所 開設

2021
住友電工グループの温室効果ガス削減目標が
「SBTi※」認定取得
※Science Based Targets initiative

2023
日新電機株式会社、株式会社テクノアソシエ
完全子会社化

Business Development of Sumitomo Electric

独自技術の開発、新規事業への挑戦で、
5つの事業分野が確立



銅電線(裸銅線)の製造技術を基に、
「電力用ケーブル」「通信用ケーブル」をはじめ
「電子ワイヤー製品」など幅広い新製品を開発。
一方、こうした電線の伸線技術を応用した「特殊金属線」、
伸線に必要な線引きダイスの内製化を機に
「超硬合金工具」の開発など、非電線分野へ進出。
さらに、この粉末冶金技術を生かして
「焼結部品」などを世に送り出しました。

また、銅電線の導体技術は「化合物半導体」
「フレキシブルプリント回路」など、
絶縁技術は「電子線照射製品」や
「ゴム製品」「ハイブリッド製品」の開発に繋がりました。
さらに、電線製造に関する制御技術や伝送技術の応用により、
「システム製品」などの分野に領域を広げ、
現在、「環境エネルギー」「情報通信」「自動車」
「エレクトロニクス」「産業素材」という5つの事業分野を確立しています。

今後もこれらの技術をベースに、新しい事業領域に展開・挑戦し、
よりよい社会の実現に貢献していきます。

Business Segment

社会課題の解決に技術で挑む5つの事業分野

Business 01

再生可能エネルギーの普及など、
新しいエネルギーシステムを構築する。

Environment & Energy 環境エネルギー

ヨーロッパでは大型国際連系線プロジェクトが立ち上がり、
新興国においては電力インフラの需要が伸びています。
再生可能エネルギーの導入が増え、電気自動車も普及する中、
環境エネルギーに関わる住友電工グループの
豊富な経験と技術が必要とされています。
日本国内トップの事業基盤と実績をベースに、世界へ事業を拡げ、
グローバルなプレゼンス向上を目指します。

Business 02

増加するデータトラフィックに応え、
大容量高速通信の実現に挑む。

Info-communications 情報通信

AI・IoT関連需要を支えるクラウドサービスの拡大やデータセンタの大型化、
ネットワーク高速化の鍵となる第5世代移動通信システム(5G)時代の到来により、データトラフィックは格段に増加しています。
光ファイバ・ケーブル、伝送デバイス、化合物半導体基板、アクセス機器などの
開発力、製造技術を強みとする住友電工グループは、大容量高速通信を
実現し、デジタルトランスフォーメーション(DX)の時代を支えていきます。

Business 03

自動運転や環境対応などの
モビリティの進化を支える。

Automotive 自動車

世界の自動車販売台数は緩やかに増加する中、
環境対応車が急拡大しています。
ソフトウエアアップデートや環境対応など
自動車業界が大きな変革期を迎えている今、
私たち住友電工グループはグループ内リソースを集結し、
モビリティの進化に貢献していきます。

Business 04

モバイル端末・自動車・航空機器の
さらなる進化を支える。

Electronics エレクトロニクス

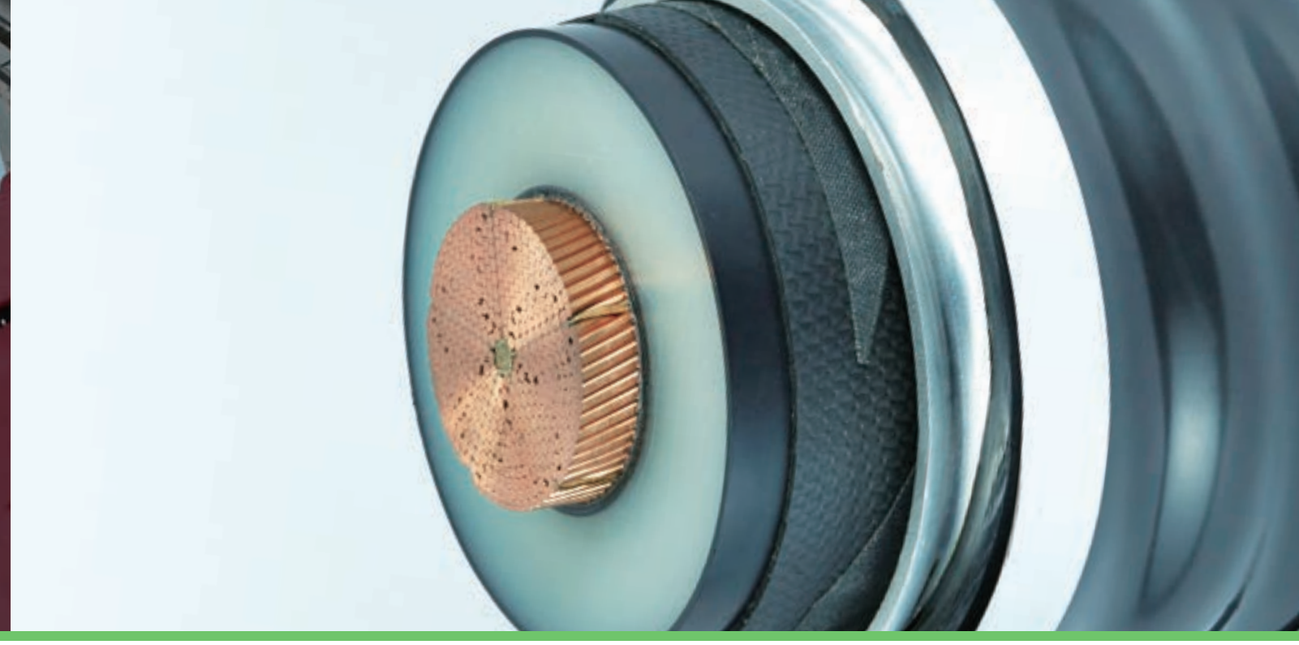
モバイル端末の伝送情報量の飛躍的な増加により、
新たな機能や規格の開発が加速しています。
また、電気自動車や自動運転の実現に向けて
カーエレクトロニクス製品や航空機器向けのニーズも増えています。
成長市場を支えると共に、高機能配線と高機能部材の
グローバルトップサプライヤーを目指します。

Business 05

高機能な素材を開発・提供し、
産業や社会インフラの発展に寄与する。

Industrial Materials 産業素材

自動車の電動化進展に伴い、軽量化材料が求められ、
医療や航空機市場でも住友電工グループ製品に対するニーズが高まっています。
私たち住友電工グループは世界トップレベルの材料技術を活かし、
高性能・高機能製品のグローバルサプライヤーを目指します。



Environment & Energy

環境エネルギー

総合電力ケーブルメーカーとしての事業基盤や高い技術力で世界へ。世界のエネルギーシステム構築に貢献。

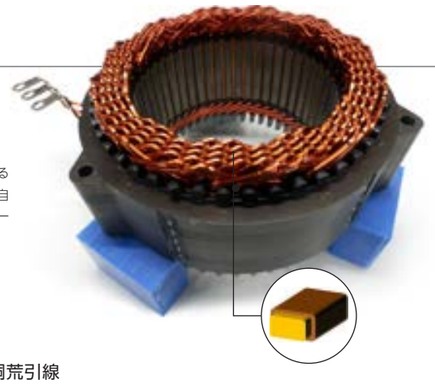
銅を溶かし、固めて、伸ばす。創業時からの銅線製造の流れを組む電線・ケーブル製品。低圧から超高圧の電線・ケーブル製品において、国内トップの事業基盤、実績を誇るなど、エネルギーインフラを日本中で支えています。そして今、ヨーロッパを中心とする国際連系線プロジェクト、新興国におけるインフラ整備、再生可能エネルギー利用の増大、電気自動車の普及など、新たなエネルギーシステムの構築には住友電工グループの技術が必要とされています。付加価値の高い多様な製品群とサービス、企画提案力、重電機器・エンジニアリング分野の関係会社を含む総合力、原材料から製品までの一気通貫での開発体制を強みに、グローバルなプレゼンス向上を目指します。

送配電用電線・ケーブル

発電所とユーザーの間を結ぶ送配電ネットワーク向けに各種の電線・ケーブル類を提供しています。特に電力会社や各国間の電力連系、大規模洋上風力用に、超高圧の直流海底ケーブルの需要が増加しており、布設工事も含め電力の安定供給に貢献しています。

マグネットワイヤー

電気エネルギーを磁気エネルギーに変換させるために使うマグネットワイヤー。ハイブリッド自動車や電気自動車、家電製品、電子機器のモータやコイルなどに幅広く使用されています。



銅荒引線

創業以来120年にわたり作り続けてきた銅荒引線を母材として数多くの当社グループ製品が生まれてきました。超高圧・大容量の「地中・海底ケーブル」、自動車の神経や血管とも呼ばれる「ワイヤーハーネス」、各種モータ・コイル等に使用される「マグネットワイヤー」など、当社グループ製品を幅広く支えています。

ポアフロン® 膜分離排水処理装置

当社独自のPTFE（四弗化エチレン樹脂）多孔化技術をベースに、水処理用として開発した中空糸膜モジュール製品です。高強度で油分などにも汚れにくい特徴があり、この膜モジュールを使用した排水処理装置は、廃水の再利用・省スペース化・維持管理の省力化を可能にし、国内外の下水や各種産業排水処理用途で、1,000か所以上の導入実績があります。
※本製品は、決算情報等での表記においては、エレクトロニクス分野に含まれます。

ガス絶縁開閉装置（GIS）

ガス絶縁開閉装置（GIS：Gas Insulated Switchgear）とは、電力の安全・安定供給のために変電所設備・受電設備として設置される機器です。しゃ断器・断路器・接地装置などを金属容器内に高絶縁性能のガスで密閉・収納していることから極めて縮小化・信頼性・安全性に優れた装置です。

レドックスフロー電池

イオンの酸化還元反応を利用して充放電を行う蓄電池です。長寿命で安全性も高く、太陽光や風力などの再生可能エネルギーの導入を拡大していく上で必要となる技術として期待されています。

家庭用蓄電池 POWER DEPO®シリーズ

太陽光発電パネルおよび電力会社の系統と連系可能な家庭用蓄電池です。再生可能エネルギーのニーズが高まるなか、エネルギーは家庭でつくる時代です。ご家庭の太陽光発電を最大限活用することで、電気の自給自足、環境に優しいカーボンニュートラル社会に貢献します。

架空送電線

発電所から変電所を経て需要地まで遠距離の電力輸送を行います。送電による電力ロスを抑えるものや、錆びにくく長寿命のものなどを取り揃えています。

Infocommunications

情報通信

光ファイバ・ケーブルの開発力、製造技術は世界トップレベル。大容量高速通信時代をリードする。

社会基盤として欠かせない通信インフラ。そこで活躍しているのが住友電工グループの光ファイバ・ケーブルや光通信用部品・機器。1970年代から製造を始めた「光ファイバ」では、世界で初めて大洋横断海底光ケーブルへ適用可能で、次世代の光ファイバとして期待される「極低損失マルチコア光ファイバ」を量産化するなど、先進的な技術を有し、優れた伝送特性や高信頼性を活かした製品群を展開しています。その他、データセンタ向け超多心光ケーブルでは世界トップレベルの開発力、製造技術、映像・光アクセス機器のソフトウェア開発技術、光通信・無線通信用化合物半導体デバイスの設計・製造技術など、接続（つなぐ）を担う高い技術を有しています。私たちが大切にするこれらの技術を活かし、様々なユーザーの“期待の一歩先”を実現、独創的な製品を開発することで、大容量高速通信時代をリードしていきます。

光ファイバ

光ファイバは人間の髪の毛ほどの細いガラスでできており、その中に光信号を閉じ込め、伝搬させる高性能の伝送媒体です。
光ファイバを伝搬する信号は外部ノイズの影響を受けづらく高い通信品質を保てるため、太平洋を横断する1万km以上の長距離に渡って、高速で安定な光通信を可能とします。

光ケーブル

光回線の需要増加によって光ケーブルの布設量も増える中、布設箇所の収納効率を高めた細径光ファイバケーブルが活躍しています。また、データセンタでの高密度配線需要に対応した超多心光ケーブルなど、多彩なラインナップで光通信網を支えています。

化合物半導体（GaAs、InP）

化合物半導体は、光ファイバ通信用レーザや受光素子、携帯電話などの無線通信システム用の各種トランジスタ、さらにCD・DVD・Blu-rayなどの光源、照明用の白色LEDなどに使われています。

融着接続機

放電を利用して、ガラス製の光ファイバ同士を短時間かつ簡単に接続する、光ネットワーク構築に不可欠な製品です。世界初の独自AI技術搭載により、環境やスキルに依存せず、常に高品質な接続が可能です。

ブロードバンド ネットワークシステム・機器

光アクセスシステム（EPON）や4Kセットトップボックスなど新しい通信・放送サービスの中核を担う機器や、お客様のご要望にきめ細かくお答えするシステムインテグレーションの提供を通じて、快適な情報通信社会の実現に貢献しています。

光デバイス

光で動画や音声などの情報を伝える光通信に欠かせない部品です。高速・低消費電力・小型の光送受信用デバイスで各家庭と局、データセンタ内、データセンタ間、都市を結び、長距離・大容量のデータ通信を可能にします。

電子デバイス

無線通信を実現する重要部品です。低消費電力化、小型化が要求される第5世代移動通信システム（5G）基地局、高い信頼性が求められる衛星通信、航空管制や船舶用・気象観測用のレーダーにも採用されています。

Blu-rayは、Blu-ray Disc Associationの商標です。

Automotive

自動車

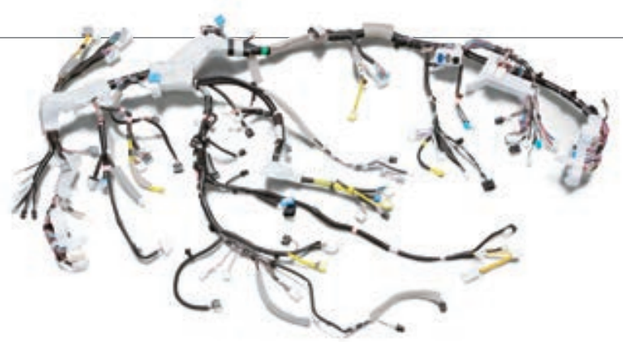
世界33の国と地域へのグローバル展開力が強み。今後も自動車業界の大変革に貢献。

主力製品は自動車内部の隅々に張り巡らされ、電力と情報を伝える「ワイヤーハーネス」。激しい振動や熱に耐えながら確実に電力と情報を行き渡らせるハーネスには高度な技術が必要で、住友電工グループは大きく先行。世界の車の4台に1台のハーネスが当社製※という高い市場プレゼンスを確立しています。自動車の軽量化に貢献するハーネスのアルミ化も着実に進展。電動車の普及はもちろん、車が膨大な情報を扱うコネクテッドカー、自動運転車の実現にも私たちの「つなげる、つながる」技術が欠かせないものとなっています。自動車と人や社会がつながる次世代に向け、従来ワイヤーハーネスの進化に加え、電動化・高速通信・インフラ連携の技術開発を加速させ、モビリティのつなげるパートナーとして「つながる」ビジネスの拡大を目指します。

※当社調査による市場シェアの推計に基づく。

ワイヤーハーネス

自動車の隅々に張りめぐらされているワイヤーハーネス。エネルギーと情報の伝達を担い、人間に例えると血管や神経に相当する重要な製品です。自動車の電子制御機能の増加に伴い、ますます重要な部品となってきています。

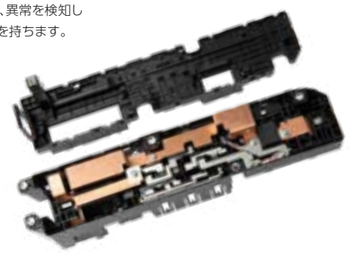


電池バスバーモジュール

高圧電池から電力とセンサ情報を取り出すためのモジュール製品です。電池セル間を接続したバスバーから電池外部に電力を供給し、電池の電圧・温度を検知、車載コンピュータ(ECU)に伝えることで、電池を安全かつ効率よく使えるようにする機能を持ちます。

高圧ジャンクションボックス(高圧JB)

BEVやPHEVなどの電動車に搭載される製品です。
高圧電池、インバータ、モータ、充電器など各電気機器間の配電機能や、異常を検知して電気回路を保護する機能を持ちます。



高速通信ハーネス

CASEの進展により、車内だけでなく車外とのさまざまな情報伝達が増加しています。高速車載通信用ハーネス・コネクタ・電線技術は、大容量のデータを遅延なく伝達し、安全・安心・快適なカーライフの実現に貢献します。

セントラルゲートウェイ

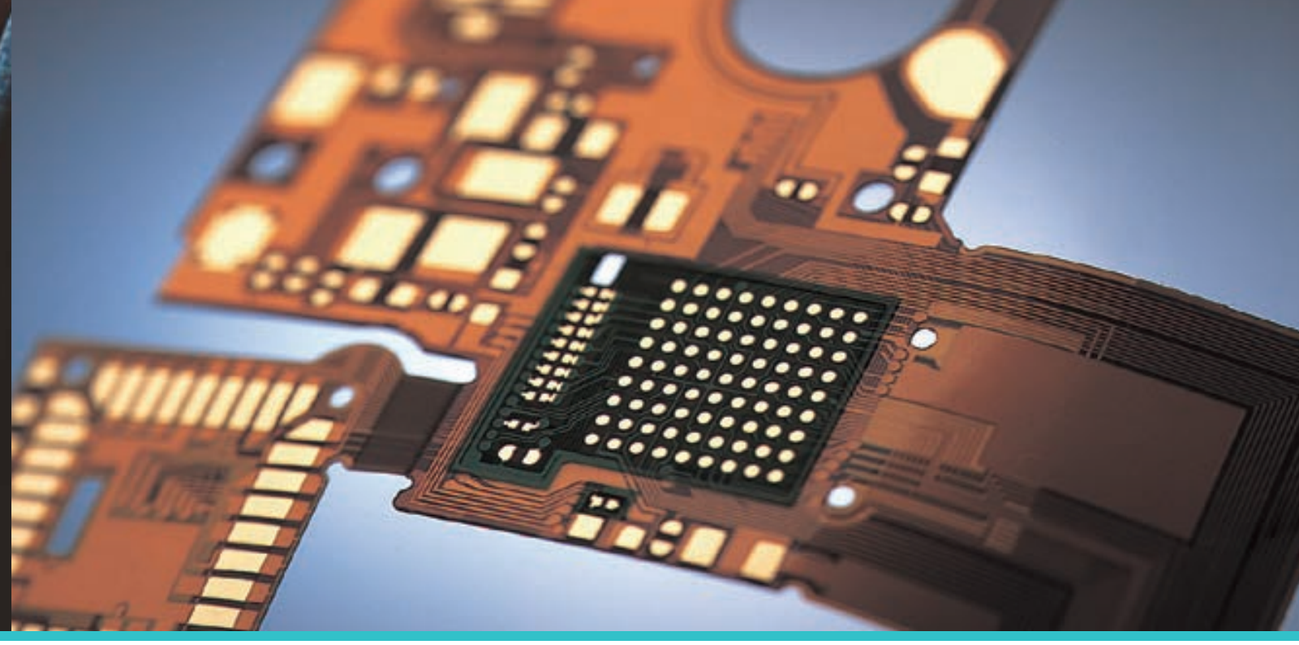
さまざまな車載コンピュータ(ECU)をつなぎ、多重通信を中継する役割を担っています。

交通管制システム・車両運行管理システム

人・車・社会を情報でつなぐ高度道路交通システム(ITS)は、安全・安心や環境に貢献する、新しいシステムを実現します。例えば、交通管制システムは信号機をコントロールすることで、安全で円滑な交通流を実現します。また、ITS／モビリティ関連技術を活用した車両運行管理システム「Eagle Sight®」など、人・車・モノの最適な流れを実現する為のソリューションを提供しています。

防振ゴム

エンジンや路面からの振動を吸収・抑制し、モビリティの安全で快適な移動を実現する重要な機能部品です。近年では電動化にも迅速に対応し、電気自動車(BEV)や燃料電池自動車(FCEV)に関連した製品も増加しています。

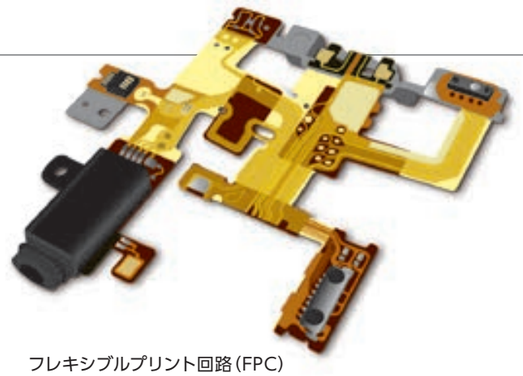


Electronics

エレクトロニクス

スマートフォンなど世界中のモバイル端末や自動車、航空機器のさらなる進化に貢献。

様々な電子機器の発展を内側から支えてきた住友電工グループの多彩な素材・配線材・部材。主力製品の「フレキシブルプリント回路」は、小さな面積の中に高密度で自由度の高い設計が可能で、複雑化するあらゆる機器内配線に対応できる配線材料です。電子ワイヤー製品や熱収縮チューブなどの電子線照射技術やプリンター用定着ローラなどのフッ素樹脂加工技術といった独自の材料開発・設計・加工技術に加え、高速伝送技術にも強みを持ち、高機能化のニーズに応える製品を生み出し続けています。これらの技術を磨き続けると共に、グローバル競争に対応すべく、サプライチェーンの強化を進め、高性能配線と高機能部材のグローバルサプライヤーを目指します。

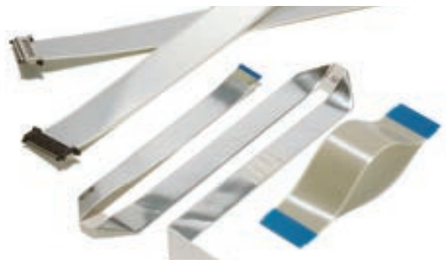


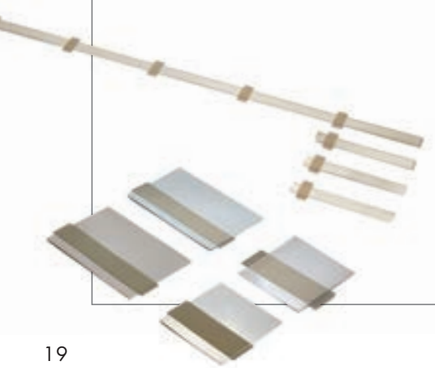
フレキシブルプリント回路（FPC）

フレキシブルプリント回路は、極薄の絶縁フィルム上に電気回路を形成した配線材料です。当社製品は、独自の材料・工程開発技術により高密度、高精細、低損失、高耐熱といった特徴を有しており、多くの電子機器の高機能化に貢献しています。

フレキシブルフラットケーブル（スミカード®）

コネクタにワンタッチで着脱できる、高密度実装に最適なフラットケーブルです。テレビ、OA機器、ゲーム機など、私たちの日常生活におけるあらゆる電子機器に用いられます。USB4、PCIe Gen5、V-by-One USなどの高速伝送規格、125℃以上の高温環境への対応を進めており、製品の高機能化を支えています。



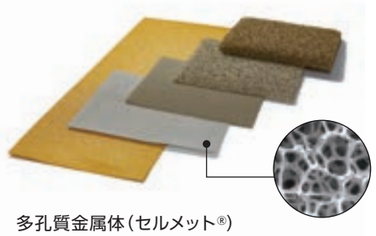


タブリード

タブリードは、スマートフォンや電気自動車に使用されるパウチ型Liイオン電池から電気を取り出すためのリード線です。当社のタブリードは、導体に直接表面処理を施し、熱変形を抑制した絶縁層を有しており、耐久性・封止信頼性に優れ、電池の高性能化・高寿命化に貢献しております。

Thunderbolt™4ケーブル

Thunderbolt™4は、USB4と互換性を持つ高速伝送の最新規格です。当社開発品は、電線に独自の高性能極細電線を採用しており、柔軟で耐屈曲性に優れることから、省スペース配線が求められる4Kディスプレイやゲーム用PCなど、様々な用途で大容量通信を可能としています。



多孔質金属体（セルメット®）

3次元網目構造を持つ多孔質金属体です。ニッケル（Ni）だけでなく、Ni-Cr、Ni-Snといった合金系のラインナップがあります。ハイブリッド車用ニッケル水素電池の正極集電体や燃料電池の構成部材、水素発生装置の電極材などに適用され、省エネと環境負荷低減に大きく貢献します。

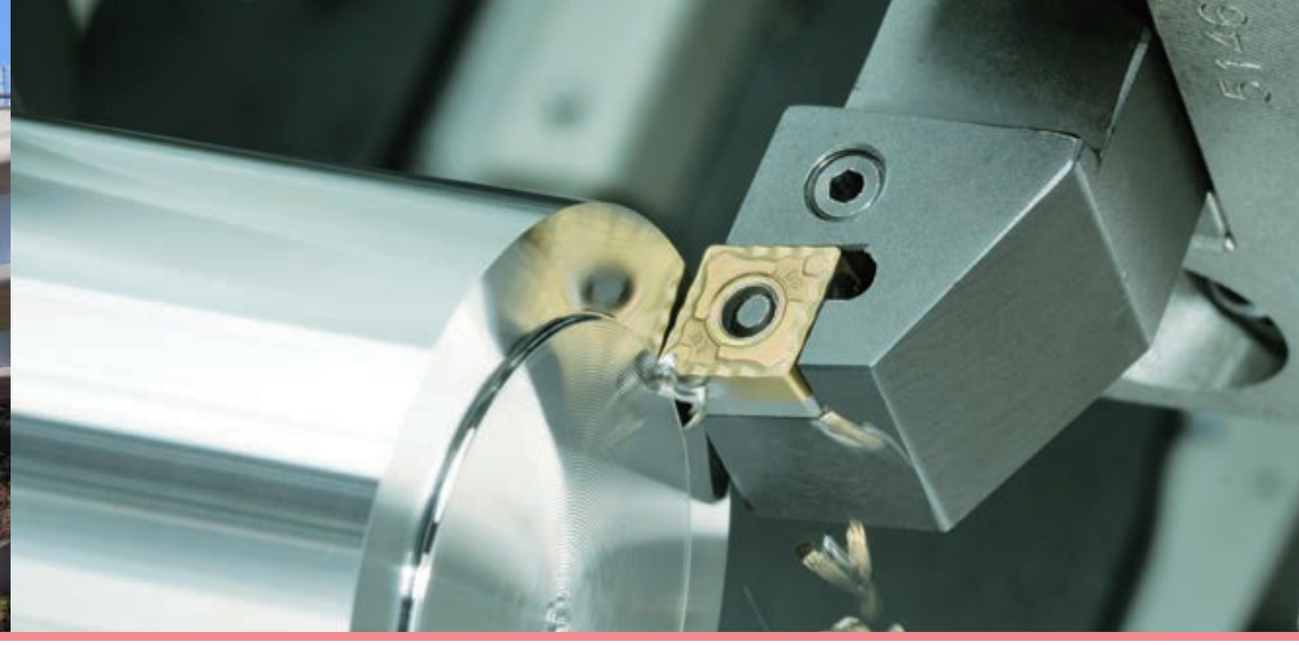
熱収縮チューブ（スミチューブ®）

加熱により内径方向に収縮するチューブで、家電、電子機器、自動車、航空機などの分野で、電線・ハーネスの絶縁保護、防水、結束などに使用されています。

プリンター用定着ローラ

高強度・高耐熱性を有した製品で、レーザープリンターなどのOA機器のトナー定着部品として使われています。

USB4はUSB Implementers Forum, Incの商標です。
PCIeは、PCI-SIGの商標です。
V-by-Oneは、ザインエレクトロニクス株式会社の登録商標です。
Thunderbolt、Thunderbolt ロゴは、米国 Intel Corporationの米国及びその他の国における商標または登録商標です。



Industrial Materials

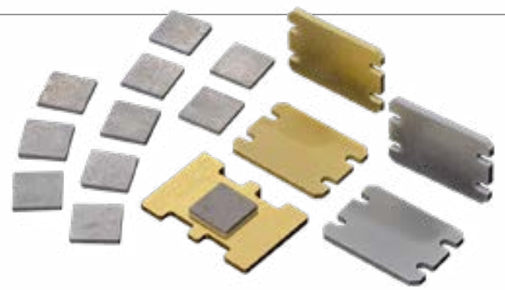
産業素材

世界トップレベルの材料技術で、社会の課題に対する新たな解決策を形に。

銅線を細く伸ばす伸線技術を基盤に発展した住友電工グループの材料。ダイヤモンドや立方晶窒化ホウ素、超硬合金といった素材を用いた「切削・研削工具」は、今、あらゆる領域で、世界のモノづくりを支えています。他にもコンクリート構造物やタイヤなどを補強する「特殊金属線」、主に自動車に使用される「焼結機械部品」は社会や産業の発展に欠かせないものとなっています。自動車の軽量化ニーズの増加、医療・航空機市場の伸長に応え、世界トップレベルの材料開発力、生産技術力を活かして、お客様や社会の課題に対する新たな解決策を形にしていきます。

切削工具
(イゲタロイ®、スミボロン®、スミダイヤ®)

金属を切る、削る、穴をあける、などの切削加工を行う際に用いられるのが、切削工具です。ダイヤモンド、立方晶窒化ホウ素に次ぐ硬さと鋼のような強靭さを兼ね備えた超硬合金工具「イゲタロイ®」、立方晶窒化ホウ素や超微粒のダイヤモンド粒子を刃先に用いた「スミボロン®」「スミダイヤ®」などがあり、機械加工分野における生産性向上と加工コスト低減に貢献しています。



高性能放熱基板

銀ダイヤモンド、銅モリブデン、銅タングステンなどの放熱基板は、xEV、航空宇宙、無線通信や光通信などに使用されるパワー半導体の性能を発揮するために欠かせない製品となっています。

ダイヤモンド・CBN工具

高能率・高精度加工を実現するダイヤモンド・CBN工具は、超砥粒と呼ばれるダイヤモンド・立方晶窒化ホウ素(CBN)を使用し、自動車、航空機、機械、医療機器、半導体部品など幅広い産業のモノづくりを支えています。

焼結機械部品

金属粉末を圧縮した成形体を焼き固める(=焼結)粉末冶金技術で作られた部品は、高い寸法精度が得られる複雑形状部品の大量生産に適しているなどの特徴を活かし、自動車部品などに使われています。また「小型・軽量・高精度」な技術で電動化にも貢献しています。

特殊金属線

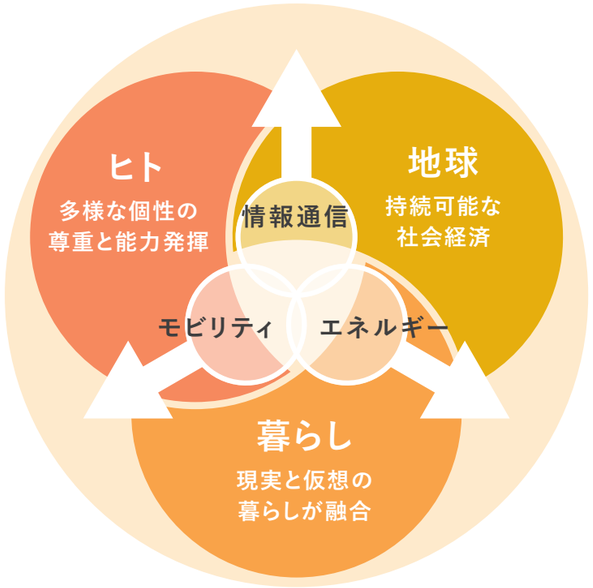
自動車エンジンの弁ばねなどに使用されるばね用鋼線や、ラジアルタイヤの補強材に使用されるスチールコード。自動車業界からの、省エネ・安定性・安全性・快適性のニーズに応え、私たちの快適なドライブを支えています。また、PC鋼材はコンクリート構造物、LNGタンク、枕木などの強度や耐久性の向上のために使用され、広く社会を支えています。

本書に記載されている会社名・製品名などは各社の商標または商標登録です。

Research & Development

次世代を担う研究開発テーマ

モビリティ、エネルギー、コミュニケーションの領域を中心に、幅広く保有するコア技術の強化、自動車やエネルギー分野の大変革とこれらの融合に応えるイノベーションの創出、大きな社会変革をもたらすと期待される革新技術へのチャレンジに取り組みます。



顧客ニーズ

現行事業の進化

事業／営業部門との密な関係、お客様との
パートナー関係を活かし、注力事業分野を中心に開発を強化

- **送電網強化と再エネの安定供給**
  次世代超高圧ケーブル、
  風力やスマートグリッド技術 など
- **通信ネットワークの大容量・低遅延化**
  次世代超高速光通信や
  5G・Beyond5G関連技術 など
- **モビリティにおける電動化**
  クルマの電動システムと関連部材、
  次世代通信技術 など
- **高機能製品の進化**
  センシングツールや薄型モータ など

未来社会ニーズ

新規テーマへの挑戦

多様化する社会ニーズをとらえ、コア技術の活用と
革新技術の創出で新規テーマへ挑戦

- **グリーン**
  「地球」の持続可能性のため、省エネ、再エネ、材料循環等の研究を推進

  脱炭素への水素関連技術・CCUS、環境に優しい電力ケーブル、次世代水処理膜、材料分離技術 など
- **安心・快適**
  安心で安全な「暮らし」、「ヒト」の可能性の拡大を目指す研究を推進

  オール光ネットワークにおける光電融合技術
  コネクティッドと車載ネットワーク関連技術 など

ビッグデータ・AI・機械学習の活用による研究開発プロセスの効率化

市場性・事業性の検証

TOPICS 研究開発費（連結）1,563億円（2025年3月末）

01 超高速通信を可能にする車載光ハーネス実用化へ　開発加速

次世代超高速通信で有力視されている車載光ハーネスの開発を推進しています。
開発中のワイヤーハーネスは、従来品と異なり、高速・大容量通信*と軽量化の両立が可能で、耐ノイズ性にも優れます。長年培ってきた光通信技術とワイヤーハーネス技術の融合により、車載通信ネットワークの付加価値向上およびCASEの進展に貢献しています。

* 伝送速度10Gbps超の超高速通信が可能

02 世界初の標準外径19コア光ファイバを開発し、伝送容量の世界記録を更新 ～Beyond 5G後の長距離光通信のキーテクノロジー～

次世代の大容量光通信インフラとして、マルチコア光ファイバ(MCF)の開発を推進しています。
当社が開発した19コアMCFは伝送装置の消費電力を抑えつつ、通信容量を飛躍的に向上させるキーテクノロジーとして期待されます。
環境負荷を抑制しつつ大容量光通信を実現することで、情報通信社会の発展に貢献します。

03 RF電池の技術を活用して、次世代水素製造の実証試験に協力

ENEOS株式会社が開発を進める「直接MCH電解合成（Direct MCH®）技術」に、レドックスフロー電池のセルスタック技術を活用した当社開発中の電気化学セル技術を提供し、豪州で実施されるメガワット級の大型プラント実証試験に協力しています。水素キャリアであるMCHを大量に製造する技術を開発することで将来の水素社会に貢献していきます。

住友電工グループ・研究開発に関する詳細はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/rd

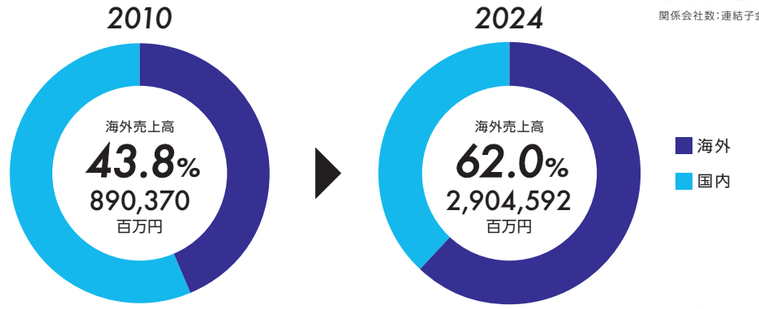
住友電工グループ・テクニカルレビューはこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/rd/technical-reviews/all

Global Network

世界各地に展開し、社会を支える住友電工グループ

世界 約**40**カ国へ展開 | 関係会社**421**社 | グループ社員数 約**29**万人

※地域間の内部売上高などを含むため、
地域別売上高の合計は正規の売上高とは異なります。
関係会社数：連結子会社及び持分法適用会社の合計



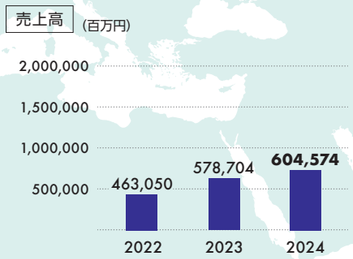
連結売上高 2,033,827百万円

連結売上高 4,679,789百万円

Europe and Others

75社

売上高 (百万円)



[TOPICS]

世界同一品質を実現するワイヤーハーネス

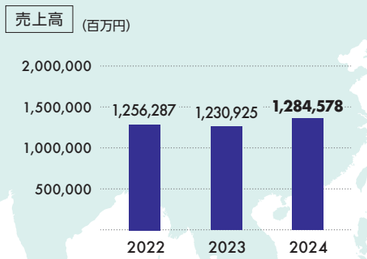
自動車の電力や情報の伝達を担うワイヤーハーネス。当社グループでは、電線素材を銅からアルミに変えたワイヤーハーネスを開発し、大幅な軽量化を実現しました。また、世界中のどの製造拠点からも「同一かつ最高品質」の製品をお届けできるよう、日々モノづくりに取り組んでおり、北アフリカの最大生産拠点であるモロッコでも、常にその方針を掲げ、生産・改善活動を行っています。

モロッコの生産現場のようす

Asia

192社

売上高 (百万円)



[TOPICS]

高品質な直流送電システムの構築

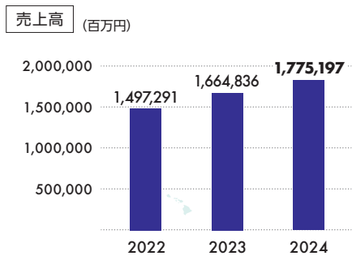
当社とドイツのシーメンスエナジー社は、インド南部の電力供給不足の解消及び送電系統の安定を目的とした地中ケーブルを含む直流送電システム(2,000MW)の建設工事を受注し、2021年3月に商用運転を開始しました。今回完工した送電システムにより、インド国内の送電系統の安定性と電力品質の向上、ならびに効率的な電力供給が可能になりました。

ケーブル布設のようす

Japan

103社

売上高 (百万円)



[TOPICS]

長寿命かつ安全なレドックスフロー電池

脱炭素社会の実現、再生可能エネルギーの導入促進により大型蓄電池が注目されています。当社のレドックスフロー電池は長寿命で発火性がないため、安全性が高く、風力や太陽光発電の系統安定化対策や電力のピークシフト、電力レジリエンス対策としてのマイクログリッド用途としても期待が高まっており、国内外の電力会社等で採用されています。最近では北海道電力ネットワーク(株)の系統側蓄電池(世界最大級の設備容量)として導入され、2022年4月より稼働を開始しています。

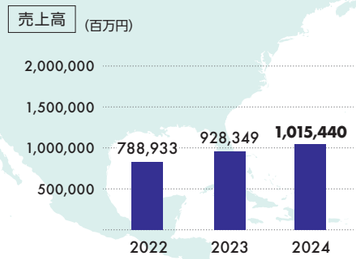
北海道電力ネットワーク株式会社向けレドックスフロー電池設備

主要グループ会社(エリア別・セグメント別)の詳細はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/company/office_group_companies

Americas

51社

売上高 (百万円)



[TOPICS]

超硬合金リサイクルによる環境負荷低減

超硬工具の主原料である、タングステンなどのレアメタルは貴重な資源です。当社グループでは、原材料の安定確保と資源の有効活用の観点から、使用済みの工具を回収して溶解・再加工するリサイクル体制を整えております。国内に加え、米国にもリサイクル拠点を設け、グループで連携して環境負荷低減に貢献していきます。

リサイクル体制を整えたアメリカ・ニューヨーク州の工場

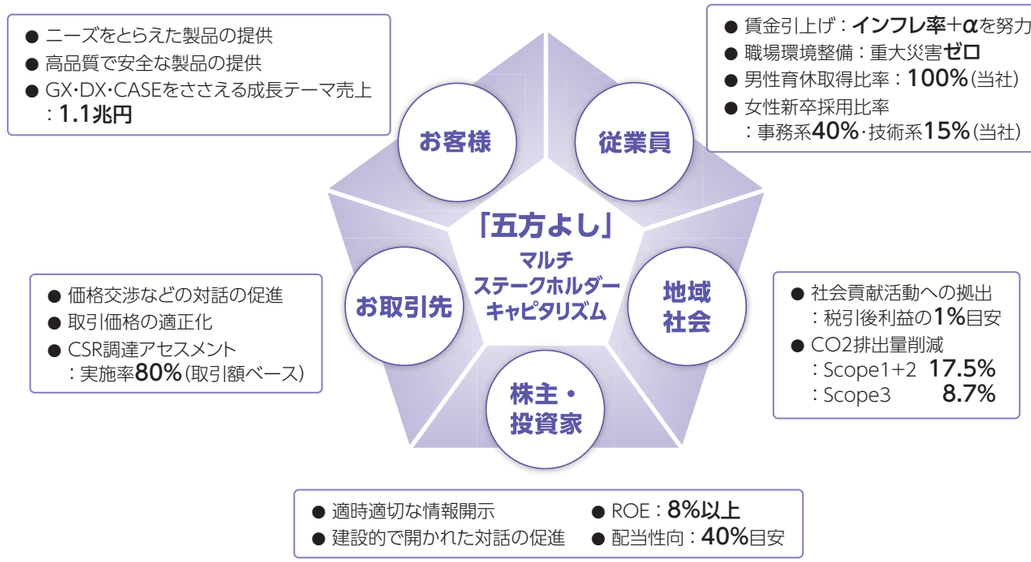
タングステンリサイクルに関する詳細はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/id/project/v17/01

Our Vision

中期経営計画 2025

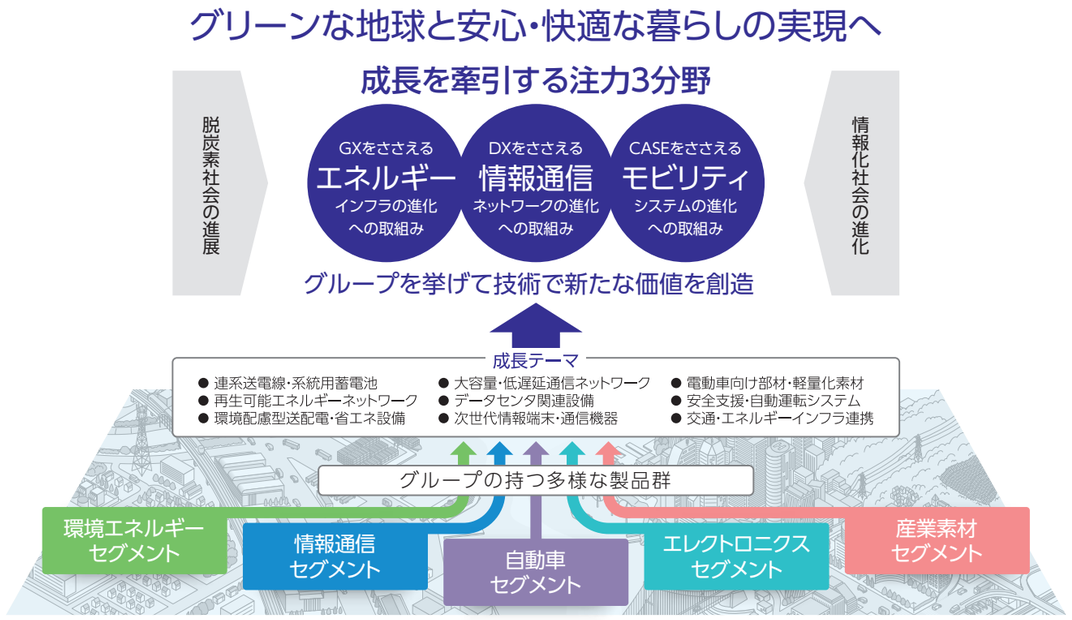
「五方よし」・マルチステークホルダーキャピタリズム

売上高	営業利益	税引前ROIC	研究開発	設備投資
4.4兆円	2,500億円	8%以上	3,600億円／3年	7,200億円／3年



2022年5月公表の「住友電工グループ2030ビジョン」を踏まえ、2023～2025年度の実行計画として「中期経営計画2025」を策定しました。
「中期経営計画2025」は、「つなぐ・ささえる技術でグリーン社会の未来を拓く」をスローガンに、「脱炭素社会の進展」や「情報化社会の進化」に伴うグローバルな事業機会を確実に捉え、グループの総合力で成長戦略を推進するとともに経営基盤の強化に取り組み、その成長の成果を適切にマルチステークホルダーの皆様へ分配していくことを基本方針としています。
当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上には、マルチステークホルダーの皆様との協働が不可欠であり、成長の成果を着実にマルチステークホルダーの皆様に還元していくこととしています。このことを「マルチステークホルダーキャピタリズム」の実践として、具体的には、上記の指標・目標の実現に向けて取り組んでまいります。

成長戦略・基盤強化



「中期経営計画2025」は、成長を牽引する「エネルギー」「情報通信」「モビリティ」の注力3分野において、「脱炭素社会の進展」「情報化社会の進化」で広がる事業機会を捉えたグループ横断的な9つのテーマを「成長テーマ」として位置づけています。
グループの持つ多様な製品群をベースとして、グループを挙げて技術で新たな価値を創造し、「グリーンな地球と安心・快適な暮らしの実現へ」貢献してまいります。
また、経営基盤を更に強化し、変化に強い企業体質を構築してまいります。
特に、「研究開発」において、顧客ニーズを捉えた現行事業の進化や未来社会ニーズを捉えた新規テーマへの挑戦に取り組むとともに、世界最高水準を実現する「モノづくり力」や構造的変化と急激な変動に対応できる「強靱なサプライチェーン」の構築に向けた取組みを進めてまいります。

住友電工グループ・中期経営計画2025はこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/company/segmid-term2025

住友電工グループ・2030ビジョンはこちら
https://sumitomoelectric.com/jp/company/segvision2030

技術がある。
今日もつながる。

Technology for better days

人を、情報を、エネルギーをつなぐ。
快適で幸せな毎日を、ひとりひとりに届けるために。
だから探究しつづける。だから挑戦しつづける。
決して目立ちはしないけど。
今日もいい一日だった、と思える暮らしを、
これからも確かな技術力で支えていきます。

We connect people, information and energy
to make everyday life more comfortable
and fulfilling. That's why we embrace
challenges and explore new possibilities.
We may not stand out, but with
our cutting-edge technology, we will keep
helping you make every day a good one.

住友電工
SUMITOMO ELECTRIC